

ふく料理

おせち 料理の終りの夏に

くしあぶりのういゝ

奈良の 柳の葉がし

そして 下畑のふく

伊藤博文 山縣有朋 桂本邦

か ニれけすはうし い と言うたとか

ふく料理

そんなとふし いのか と思つた

江戸で 下畑へ行つた時

仕事か 長びいて

夜に石り 食への物がなく

栗肉の フグヤで

フグの臭を 木と木と ぬくたものを

いんたいた

大いかにのくと共に

合へるものあつて よかうたぬと

宿組所へ行つて

フカれで おてしあつた

フと ぬがさりのと 竹がしむれていゝ

手をうばし

やうとの思いで、てんりする

すくすくに出た

本々 ~~い~~ わてい

朝 ~~あ~~ 子、わ

どうする、ろ、かろ

しおん、く

又、あとの甲へ入っておた

しばう、く、たろ

之、せ、く、お、あ、り、の、に、あ、が、つ、い、に

すくすく

お、う、し、お、れ、あ、う、た、ら、あ、り、

二人で、下、ろ、こ、に

ア、ク、は、こ、り、あ、り、た

2025
10/20